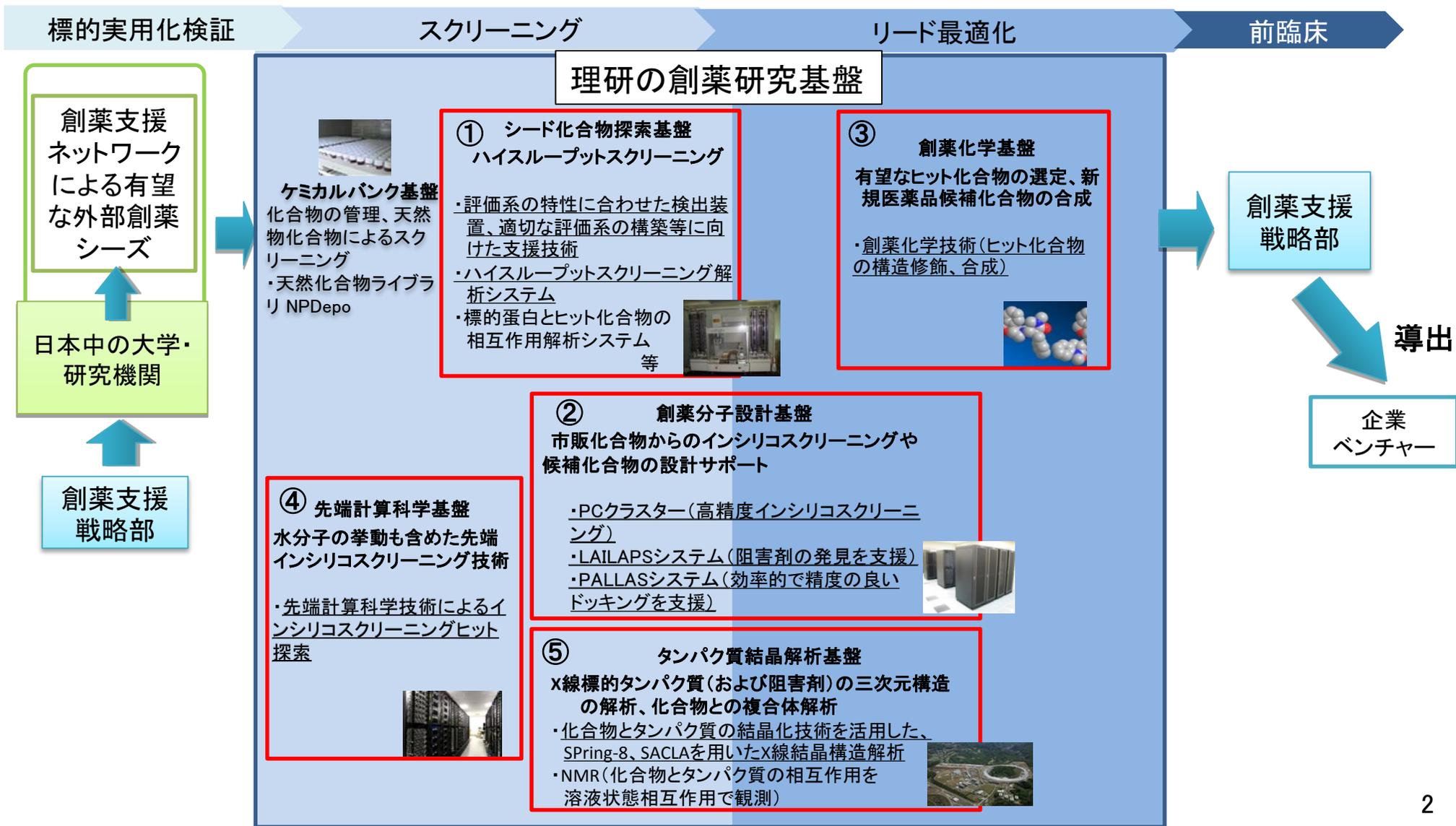


# 理化学研究所における 支援活動状況

国立研究開発法人 理化学研究所  
平成29年3月29日

平成28年度は、テーマのステージ、進捗に合わせて赤枠で示した基盤において、下線部の支援技術・設備を用いて技術支援を実施した。  
※次頁も参照。



創薬支援NW運営会議にて、理研が支援するテーマ、支援計画・方法などを決定し、それに従って支援を進めている。

## -創薬支援ネットワークのテーマのうち理研による支援テーマ(15テーマ)-

新規支援テーマ*1	ステージ	理研による支援開始年度	課題名	代表研究者/所属	支援方法*2 (理研の基盤)
	標的実用化検証	平成26年度	閉塞性動脈硬化治療を目的とした血管新生促進剤の探索	池田 宏二 神戸薬科大学	①
		平成26年度	組織再生に向けた表皮幹細胞制御分子発現調節剤の探索	西村 栄美 東京医科歯科大学難治疾患研究所	①
スクリーニング		平成27年度	先天性乏毛症治療薬の探索	青木 淳賢 東北大学大学院薬学研究所	①
		平成26年度	神経再生促進作用を持つ脊髄損傷治療の探索	武内 恒成 愛知医科大学医学部	①
		平成26年度	活性型Ras変異体に作用する新規抗がん剤の探索	片岡 徹 神戸大学大学院医学研究科	②③④
		平成27年度	がん細胞DNA脱メチル化酵素を分子標的とする First-in-classのがん治療薬の探索	辻川 和文 大阪大学大学院薬学研究所	①
		平成27年度	新規ミトコンドリア病治療薬の探索	高島 成二 大阪大学大学院医学系研究科	②③
		平成27年度	小胞体ストレス応答を活用した抗癌剤・ 抗ウイルス剤の探索	森 和俊 京都大学大学院理学研究科	①④
		平成26年度	トランスポータータンパク質を標的とした 自己免疫疾患治療薬の探索	反町 典子 国立国際医療研究センター	①②③⑤
		平成27年度	新規血液凝固阻害剤の探索	沢村 達也 信州大学医学部	①
		平成28年度	Ras/Rafシグナル伝達を阻害する新規抗がん剤の探索	島 扶美 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科	②
		平成28年度	Ras活性化因子Sos1とRasの細胞内での相互作用を 標的としたRas活性化阻害剤の探索	松田 道行 京都大学大学院医学研究科	①
		スクリーニング		平成26年度	がん細胞の酸化ストレス防御機構を標的とする 新規抗がん剤の探索
平成26年度	筋変性疾患治療薬の探索			岩田 裕子 国立循環器病研究センター研究所	①
平成26年度	シスプラチン作用増強剤の探索			本田 一文 国立がん研究センター研究所	②③⑤

\*1 前回協議会以降、新規に支援を開始したテーマ

\*2 ①シード化合物探索基盤、②創薬分子設計基盤、③創薬化学基盤、④先端計算科学基盤、⑤タンパク質結晶解析基盤

■ : 理研支援終了テーマ

- 平成29年度のインハウス予算としては、創薬支援ネットワークの強化として、**約26.5億円**（創薬に資する技術開発を含む）が計上されている。
- 平成29年度支援方針
  - テーマのステージ、進捗に合わせ、下図に示す創薬研究基盤を活用して適切な技術支援を行う。
  - AMEDの創薬支援インフォーマティクスシステムの構築（代表機関：医薬基盤・健康・栄養研究所）として、心毒性予測システムの構築（平成29年度においては、データベースの公開、hERG予測モデルの構築）を行う。薬物動態予測システムの構築にも参画。

